

海外インターンシッププログラム

派遣国・都市名	オーストラリア 西オーストラリア州 パース市
研修先	西オーストラリア州・兵庫文化交流センター
プログラム実習期間	2013年8月20日～9月10日
学部/研究科・学年	国際文化学部 3年

インターンシップ就業実習 報告書

今回のインターンシップでは、西オーストラリア州パースにある兵庫県事務所で、3週間就業体験をさせて頂きました。3週間という限られた時間の中ではありますが、大変多くのことを経験し、学ぶことができました。事務所での主な業務内容は、

School visit の補助

インターン生で企画をしたワークショップの準備・実施

図書の貸し出し手続きや事務所のイベント”chatter box”の準備

といったものでした。

School visitとは現地校の子供たちが文化センターへ日本文化や日本語を体験しにくるプログラムで、今年は現地のカリキュラムの関係で多くの学校が毎日のように文化センターを訪れました。その中で私たちは、子供たちから日本語でインタビューを受け日本語を使う練習をしてもらったり、日本文化体験としての書道の指導に当たったりしました。毎日同じ内容の school visit であっても、学年や学校によって日本語の定着度や日本文化への関心は異なり、いかに子供たちの興味関心を高め、このプログラムを日本語や日本文化学習のきっかけとすることができるかが重要であると感じました。また、プログラムの限られた時間の中で一つでも多くの日本語や日本の習慣に触れてもらうためには、私たちと事務所の方が効率よく行動し準備をしなければならないと強く思いました。徐々に慣れてくると、準備や日本語でのコミュニケーションの取り方などの要領もつかめてきましたがその一方で、一度慣れてしまうと、日本語のコミュニケーション方法を試行錯誤することが少なくなってしまうという点に関しては改善すべきであったと感じます。この school visit がセンターの中での大きな仕事の一つであり、最後には子供たちへのプログラムの説明や司会を任せていただけ、大勢の前で英語を話す自信にもつながりました。

インターン生主催のワークショップでは、今年のワークショップのテーマを「新しい日本文化」とし、プレゼンテーションと日本のゲーム・料理の体験を企画しました。プレゼンテーションでは日本のポップカルチャーとして音楽と映画について紹介し、その背景にある日本文化について発表しました。そして日本のポップカルチャーを架け橋とした日本とオーストラリアの関係が築かれていることを現地の人々に知ってもらい、今後の文化交流のきっかけとなるようなプレゼンテーションをしました。ゲームでは福笑いを、料理では9月という季節に合わせた月見団子・炊き込みご飯おにぎりの体験をしてもらいました。ワークショップを企画する過程で、日本で事前に発表内容を考えていたり、センターの備品で行えるアクティビティをリサーチしていったことで準備をスムーズに進めることができました。しかし実際にプレゼンテーションをするとなると話し方や英語の表現など、セン

ターの方に指摘されて初めて気づく所も多く、伝えるという面での準備をもっと早くから進めるべきだったように思います。当日はたくさんの、幅広い世代の方々に参加していただき、ワークショップを盛り上げることができたと思います。早速センターの図書や映画を借りていく人もおり、自分たちの発表が文化センターの活動に良い影響を与えられたことを実感しました。

センターの事務作業やイベントの準備では、作業とはいえないほどたくさんの人々と触れ合うことができました。図書の貸し出しをする中では現地に住む日本人の方や、日本に興味があるオーストラリアの方と話すことで、今現地ではどのような日本文化への関心があるのか、また日本の本や映画には他にはあまり見られない特有の哲学的な内容が含まれていることなどを教えていただきました。このような事は現地の人と話してみなければ知ることができないことで、改めてセンターの存在が日本とオーストラリアの関係をつないでいることを感じられる業務でした。

センター以外でのパースでの生活も非常に充実しており、ホストファミリーと暮らすことで、英語での生活に慣れるというだけでなく、お互いの国についてたくさんの事を話すことで、オーストラリアでの生活や仕事への考え方なども学ぶことができました。さらに休日には家族の友達に私を紹介してくれ、一緒に観光地に出かけるなど、本当に私たちを家族のように迎えて下さいました。また、センターに関わっている国際交流基金の方のご好意で、オーストラリアで日本語教育のアシスタントをしている日本人の勉強会にも参加させて頂くことができました。そこでは、私と同じくらいの年齢の学生や、兵庫県の英語教師の方々と、日本語を教えるにあたっての課題や、アシスタントとしての在り方について考えることで school visit での子供たちへの接し方のヒントを得るなど、非常に刺激になりました。

感想および意見

報告書のとおり私たちは幅広い業務に携わらせていただき、これらすべての業務や日常生活を通して、初めは自分自身の課題として発見した、自ら率先して行動・仕事をする事や、生きた英語を自分のものにするという事を克服できたと感じるので、これをきっかけとして更に成長していきたいと思います。自己成長という点で、事務所での職員の方との会話が日本語になりがちであったという点を反省し、実習後半からはすべて英語で指示や会話をするようにしていただけるようお願いをしました。このことは非常に効果的であったので、次年度以降はもっと早い段階から実践することでさらに英語で仕事をするということを強く意識し、有意義な実習となるのではないかと感じます。また、センターの school visit のスケジュールの関係で準備と片付けが立て込み、せっかく教えて頂いた事務作業に携わる時間があまりなかったことが、少し心残りです。

総じて、このインターンシップでは、学生という枠を超えて国同士をつなぐ日本人として・社会人として外国へ行くことで日本への新たな視点や、就職活動前から社会に出て働くということの実感を得ることができました。この経験は自分の職業や目指す将来を決定していく上で本当に大きな糧となるはずです。このような素晴らしいインターンシップの機会を与えて下さった神戸大学と兵庫県をはじめ、現地で関わって頂いた全ての方々に感謝の意を示したいです。ありがとうございました。



School visit での習字のデモンストレーション



Workshop でのプレゼンテーションの様子



school visit で子供たちに指導している様子